



政府統計

報道関係者 各位

令和6年5月21日

【照会先】

政策統括官付参事官付世帯統計室
縦断調査管理官 菅沼 伸至
室長補佐 清水 美奈 (内線 7473)
(担当) 出生児縦断統計係 (内線 7566)
(代表電話) 03(5253)1111
(直通電話) 03(3595)2321

第13回「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」の結果を公表します

厚生労働省では、このたび、同じ集団を対象に毎年実施している「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」の第13回（令和5年）の結果を取りまとめましたので、公表します。

21世紀出生児縦断調査は、21世紀の初年である平成13年に出生した子を継続的に観察している調査と平成22年に出生した子の比較対照等を行うことにより、少子化対策などの施策のための基礎資料を得ることを目的としています。

調査時点での子どもの年齢は、13歳（中学1年生）です。

【調査結果のポイント】

1 母の就業状況の変化

- ・母が有職の割合は第13回調査（中学1年生）で81.8%となり、平成13年出生児（第13回）の76.4%に比べて5.4ポイント高い（3頁 図1）
 - ・出産1年前（注）の就業状況が「勤め（常勤）」の母のうち、第1回調査から第13回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は、平成22年出生児では33.4%で、平成13年出生児の24.4%に比べて9.0ポイント高い（4頁 図2）
- （注）調査対象である子の出産1年前をいう。

2 子どもの状況

（1）家庭での会話

- ・母、父と会話をする割合を平成13年出生児と比べると、母、父ともに「学校のできごとについて」「友達のことについて」が上昇している（5頁 図3）

（2）将来（進路、結婚、最初の子どもを持つ時期）

- ・子ども自身が考える将来は、男児・女児ともに「具体的にはまだ考えていない」の割合が最も高く、平成13年出生児と比べて上昇している（6頁 図4）

（3）将来就きたい職業・子どもに将来就いてほしい職

- ・将来就きたい職業が決まっている子どもがその職業に就きたい理由は、「自分の興味や好みにあっているから」の割合が最も高く、保護者が子どもに将来就いてほしい職も、「子ども自身が望む職」の割合が最も高い（7・8頁 図6）